

図書紹介

永里賢治著

『環境規制と企業行動』

(文眞堂 2021 年 3 月 15 日発行 2500 円)

東京農工大学名誉教授 亀山秀雄

はじめに

著者の永里氏は、社会人としての化学物質規制に関する国際的な場で仕事をしながら、東京工業大学、東京農工大学、一橋大学で社会人学生として仕事で得た知識を体系化する研究を行った結果をまとめたのが本書である。学位は、東京農工大学の技術経営研究科 (MOT) で P2M を学び、その方法を活用して論文をまとめて博士 (学術) を取得した。本書は、博士論文を基に新たな情報も加えてまとめられており、本書に P2M のマネジメント手法が随所に見られるのはそのためである。本書は環境規制に対する企業行動を扱った実務に使える書籍であり、他に類を見ない。本書では、企業における製品マネジメントや意思決定手法、あるいはプロジェクトマネジメントの視点からも考察を加えて、これから企業の取るべき戦略的な行動についての提案もあり、P2M を活用する人にとって座右に置いても良い書籍であると思われるので紹介することにした。

著者紹介

永里賢治：協和発酵工業(株)で国際的なフィールドでの化学物質規制と企業戦略の仕事を行い、その仕事をまとめて博士 (学術) 号を取得し、現在、兵庫県立大学国際商経学部准教授。詳しくは P2M マガジン 7 号に研究室紹介があるので見られたい。

[ja \(jst.go.jp\)](http://ja.jst.go.jp)

本書の構成と概要

本書は、博士論文を骨子に書籍にまとめたもので、社会人博士課程在籍者は、是非この書籍の目次構成と書き方を見られると参考になると思われる。

序章 研究の背景、目的、構成、用語定義からなり、博士論文の体裁が伺える。

第 I 部 化学物質規制とは何か

第 1 章 化学物質規制の潮流：化学物質規制の歴史を振り返りながら、環境規制に産業政策を融合した欧州の取り組みや予防原則という新しい概念の適応について事例を用いて解説している。

第 2 章 予防原則を用いた化学物質規制：予防規則が環境規制の導入されることの意義や効果について事例を用いて解説している。

第 II 部 化学物質規制に対する企業のリスクマネジメントと意思決定

第 3 章 化学物質規制と企業のリスクマネジメント：企業が規則内容を予測したり、規制化された場合の市場に与える影響を考へてのリスクマネジメントについて事例を用いて解説している。

第 4 章 企業における化学物質マネジメントと意思決定：企業が行う化学物質マネジメントと意思決定の手順を事例を用いて解説している。

第 III 部 これからの化学物質規制と企業の戦略的行動

第 5 章 これからの化学物質規制：化学物質規制のあるべき姿について、P2M の視点で考察している。

第 6 章 企業の戦略的行動：企業はこれからは化学物質規制に対してプロアクティブな姿勢で臨む必要があることを事例を用いて解説している。

終章 本書が明らかにしたものとして、①化学物質規制、②化学物質と企業の意思決定、③企業における製品マネジメントであることをまとめている。